

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：茅野 牧夫

事業名	地域高規格道路 岐阜南部横断ハイウェイ 一般国道21号 岐大バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局	
起終点	自：岐阜県岐阜市東中島 至：岐阜県大垣市長松町	延長	23.9 km			
事業概要 一般国道21号岐大バイパスは、岐阜県岐阜市東中島から岐阜県大垣市長松町に至る延長23.9kmのバイパス拡幅及び立体化事業であり、地域高規格道路「岐阜南部横断ハイウェイ」の一部を構成し、交通渋滞の解消や交通安全の確保を目的に計画された道路です。 平成24年度末迄に岐阜各務原ICに接続する岐南インター以東や、長良川渡河部の計4.2kmについて完成済みであり、岐阜市周辺の東西交通の渋滞緩和に寄与してきました。 岐大バイパスには、主要渋滞箇所（3区間（13箇所））及び単独3箇所）や事故多発箇所（ワースト10位内4箇所）の存在などの多くの課題があり、本事業は、課題解決のために拡幅整備等を行うことで、旅行速度が約1割向上する等の効果を見込んでいます。						
S35年度事業化	S36年度、S46年度 都市計画決定 (S49年度、S56年度、S59年度、H元年度変更)	S36年度用地着手	S39年度工事着手			
全体事業費	1,100億円	事業進捗率	46%	供用済延長	4.2km	
計画交通量	54,000台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.3 (残事業) 2.0	総費用 (残事業)/(事業全体) 450/1,293億円 (事業費：400/1,229億円 維持管理費：50/64億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 905/1,717億円 (走行時間短縮便益：721/1,410億円 走行経費減少便益：125/218億円 交通事故減少便益：59/90億円)	基準年 平成25年		
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=1.0~1.6(交通量±10%) 事業費：B/C=1.3~1.4(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.2~1.5(事業期間±20%)						
感度分析の結果 【残事業】交通量：B/C=1.6~2.4(交通量±10%) 事業費：B/C=1.8~2.2(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.8~2.3(事業期間±20%)						
事業の効果等 ①円滑なモビリティの確保 ・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ・現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される。 ②国土・地域ネットワークの構築 ・地域高規格道路「岐阜南部横断ハイウェイ」の一部として位置付けられている。 ・当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する。 ③個性ある地域の形成 ・拠点開発プロジェクトを支援する。 ④安全な生活環境の確保 ・現道等に死傷事故率が500件/億台キロ以上である区間が存する場合において、交通量の減少、歩道の設置又は線形不良区間の解消等により、当該区間の安全性の向上が期待できる。 ⑤災害への備え ・第一次緊急輸送道路として位置付けられている。						

⑥地球環境の保全

- ・CO2排出量の削減が見込まれる。

⑦生活環境の改善・保全

- ・NO2排出量の削減が見込まれる。
- ・SPM排出量の削減が見込まれる。

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

岐大バイパスは、各務原市・大垣市等の沿線地域の産業集積圏を結ぶ地域連携軸として、十分な機能を発揮することが期待されており、岐阜市をはじめとした関係市町の首長で構成される国道21号・22号および岐阜南部横断ハイウェイ整備促進期成同盟会より早期整備の要望（平成24年8月）を受けている。知事の意見：

対応方針（原案）案のとおり、事業の継続について異存ありません。

事業評価監視委員会の意見

- ・「事業継続」することは「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・岐阜市と大垣市の間は、揖斐川と長良川の2つの大きな河川があり渡河部が限られること、岐阜市と大垣市を接続する多車線道路は岐大バイパスのみであることから、岐大バイパスに交通が集中し混雑している。
- ・岐大バイパスの主な交差点は大半が主要渋滞箇所となっている〔3区間（13箇所）及び単独3箇所〕。
- ・岐阜市～大垣市間は、ピーク時旅行速度が20km/h前後まで低下している。
- ・岐大バイパスには、県内の事故多発箇所ワースト10が4箇所存在するほか、全区間にわたり事故多発箇所や事故危険区間が存在している。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業進捗率は46%、用地進捗率は100%。
- ・瑞穂市穂積～大垣市長松町（L=13.4km）の開通に向けた調査及び工事を実施。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・瑞穂市穂積～大垣市長松町（L=13.4km）、羽島郡岐南町徳田～岐阜市茜部本郷（L=2.8km）は、概ね10年程度の開通を目指す。

施設の構造や工法の変更等

- ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト削減に努めながら事業を推進する。

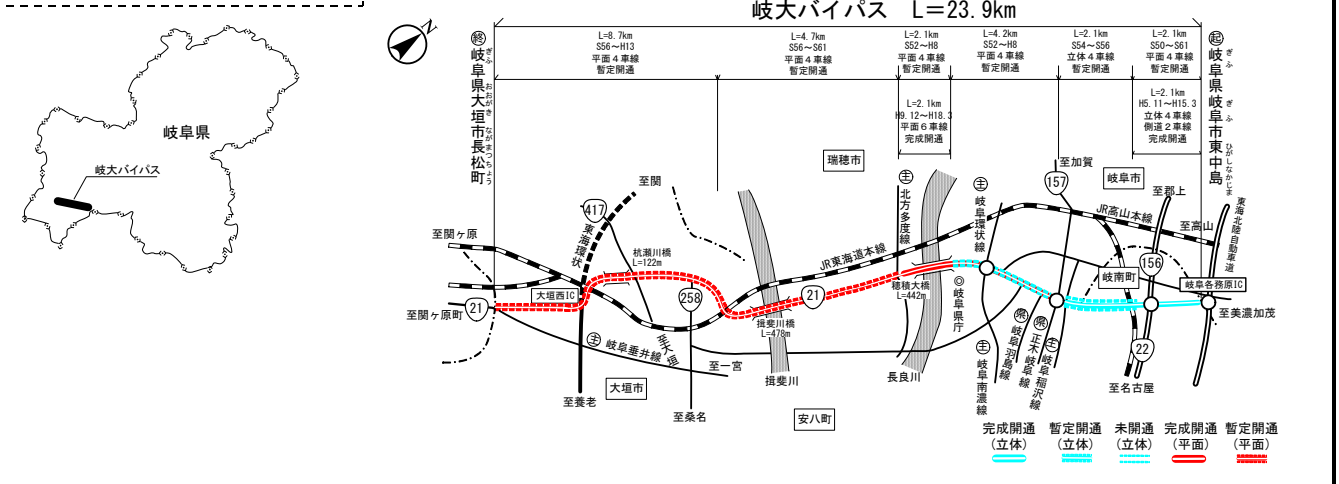
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。